

津田左右吉物語

第22回

左右吉をとりまく人々

(池内宏博士)

明治41年、左右吉は白鳥庫吉博士を主任とする満鮮歴史地理調査部の専任研究員となり、池内宏(のちに東大教授になる)とともに高麗朝以前の朝鮮史を担当することになりました。

池内は、朝鮮や満州の古代・中世史を研究し、満鮮史の基礎を築いた人物で、祖父は幕末期の志士、池内大学です。

左右吉は、池内と公私ともに親しくしていました。当時の「鼠日記」によると、池内からヨメナをもらったり、一緒に神社へでかけたり、当時世間で問題となっていた南北朝正閏論について議論するなど、交友を深めていました。

左右吉は、同調査部で同じ研究員と切磋琢磨し、研究成果を次々と発表しました。左右吉の徹底した「文献批判の学」の研究方法は、ここで培われたものです。同調査部での成果として『朝鮮歴史地理』一巻・二巻(大正2年)などがあります。



▶ 池内宏博士
『國史大辞典』から